

I. 平成24年度の概要

1. 事業について

公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

来年度の平成25年度は財団創立30周年に当たり、第8回理事会において、財団創立30周年記念事業企画委員会を組織化することを決定し、同委員会において2回にわたる討議を経て、第10回理事会にて財団創立30周年記念事業として、海外帰国研究者研究継続支援助成並びに若手研究者海外短期留学奨学研究助成（単年度実施）を提案し、承認を得た。尚、当該助成の応募期間として、平成25年1月15日から2月28日まで実施した。

平成24年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 （公1）	1. 研究助成 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学研究助成 5. 財団創立30周年記念事業 (1) 海外帰国研究者研究継続支援助成 (2) 若手研究者海外短期留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公2）	1. 研究業績褒賞事業（第10回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 （第29回高峰カンファレンス）

2. その他について

- (1) 第一三共株式会社より、平成24年4月11日、指定寄附金として、1億5千5百万円を受領した。
- (2) 平成24年4月25日の第4回選考委員会において、平成24年度海外共同研究支援助成、同年度研究会・シンポジウム開催助成並びに第10回高峰記念第一三共賞第一次候補者の選考を行った。
- (3) 平成24年5月28日の第10回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者の選考を行った。

- (4) 平成24年6月6日の第8回理事会において、平成23年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）の事業報告及び決算報告書、平成24年度海外共同研究支援助成、同年度研究会・シンポジウム開催助成の各助成者の決定、第10回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う理事候補者の推薦、任期満了に伴う選考委員改選、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の件、財団創立30周年記念事業企画委員会設置並びに企画委員会委員選任等の件及び理事の職務権限規程制定の件について、審議され、承認を得た。
- (5) 平成24年6月20日の第4回評議員会において、平成23年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）決算報告書及び任期満了に伴う理事の改選について、審議され、承認を得た。
- (6) 平成24年6月21日に内閣府に平成23年度事業報告等の提出を行った（電子申請）。
- (7) 平成24年6月27日に第5回選考委員会を书面決議にて実施し、辻省次氏を選考委員長に選出した。
- (8) 平成24年6月27日に第9回理事会を书面決議にて実施し、理事長（代表理事）の選定の件及び常務理事（業務執行理事）の選定の件について、承認を得た。鈴木良彦理事長、森田明常務理事が再任された。
- (9) 平成24年8月22日に第1回財団創立30周年記念事業企画委員会が開催され、各種候補事業の中から、海外帰国研究者研究継続支援助成及び若手研究者海外短期留学奨学研究助成が最終候補として選定された。10月15日に開催された第2回財団創立30周年記念事業企画委員会において、応募要領等を決定し、12月7日に開催される第10回理事会に上程することになった。
- (10) 平成24年10月31日の第6回選考委員会において、平成24年度研究助成、平成25年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、平成25年度海外留学奨学研究助成については、11月12日に内定者（5名）の面接を実施した。
- (11) 平成24年12月7日の第10回理事会において、平成24年度研究助成対象者決定の件、平成25年度海外留学奨学研究助成対象者決定の件、財団創立30周年記念事業実施要領の件、平成25年度事業推薦・応募要領について、助成（褒賞）候補者推薦依頼先について、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程改定の件、選考委員会委員謝金等に関する細則改定の件、財団創立30周年記念事業選考委員会等運営規程及び選考方法の基準の制定の件、財団創立30周年記念事業選考委員会委員、面接審査員に対する謝金等に関する細則制定の件及び第5回臨時評議員会を「決議の省略」の方法により行うこと及びその内容に関する件について、審議され、承認された。
- (12) 平成24年12月18日に、第5回評議員会を书面決議にて実施し、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改定について、承認を得た。

- (13) 平成24年12月21日に、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改定に係わる変更届出書を内閣府に提出した（電子申請）。
- (14) 平成25年2月1日の第11回理事会において、平成25年度事業計画及び収支予算について、審議され、承認された。
- (15) 平成25年2月1日に第10回高峰記念第一三共賞の贈呈式が実施された。
- (16) 平成25年2月22日に平成25年度事業計画及び収支予算書を内閣府に提出した（電子申請）。
- (17) 平成25年3月1日に第29回高峰カンファレンスを開催した。
- (18) 人事関係
 - 1) 平成24年5月14日、当法人理事の板倉光夫氏の住所変更に係わる変更届出書を内閣府に提出した（電子申請）。
 - 2) 第4回評議員会にて、当法人の理事について、任期満了に伴う改選が行われ、全員再任された。また、第9回理事会にて、理事長及び常務理事について再任された。
 - 3) 第8回理事会にて、任期満了に伴う選考委員の改選が行われ、加藤茂明氏、村松正實氏が退任され、高橋雅英氏、吉田稔氏が選任され、その他の選考委員全員が再任された。第5回選考委員会にて、選考委員長として、辻省次選考委員が選出された。
 - 4) 第8回理事会にて、財団創立30周年記念事業企画委員会が設置され、委員として、鈴木良彦理事長、永井良三理事、長野哲雄理事、辻省次選考委員長が選出された。
 - 5) 職員については、変更はなかった。

Ⅱ. 平成24年度事業報告

1. 平成24年度事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	研究助成 (定款第4条-1)	60,000千円	平成23年度 @100万円×30件 平成24年度 @100万円×30件
	海外共同研究支援助成 (定款第4条-2)	3,500千円	@50万円×7件
	研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条-3)	500千円	@50万円×1件
	海外留学奨学研究助成 (定款第4条-4)	24,000千円	平成23年度 @50万円×6回×5件 平成24年度 @50万円×6回×3件
	その他助成事業費	26,645千円	創立30周年記念事業の会議費等含む
	助成事業計	114,645千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	研究業績褒賞費 (定款第4条-5)	10,967千円	第10回高峰記念第一三共賞
	シンポジウム開催 (定款第4条-5)	4,410千円	第29回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	9,526千円	
	研究業績褒賞事業計	24,903千円	
合計		139,548千円	

2. 助成事業（公1）

(1) 平成24年度研究助成（定款第4条-1）

- 1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、研究助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。
- 2) 募集対象：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満の研究者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり200万円（助成期間は、2年間）。
 - ②採択数：30件
- 4) 募集方法
 - ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。
 - ②当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- 5) 応募方法

- ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者を推薦者とし、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。
 - ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。
 - ③推薦者は応募者の中から、応募者選定ガイドラインに基づき、応募者を公正かつ適正に選定した。
 - ④応募者は、推薦書を取得後、所定の申請書、主要論文を当法人に送付した。
 - ⑤応募受付期間：平成24年4月1日～5月31日
 - ⑥平成24年度の応募数：177件
- 6) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第6回選考委員会による選考結果をもとに、第10回理事会にて30件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料 - 1：平成24年度当該助成採択者参照)
- 7) 研究成果の公表
- ①助成者は、助成期間終了後、研究論文を当法人に提出する。
 - ②助成者の研究論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、本年度は、平成22年度研究助成並びに海外留学奨学研究助成等の成果論文について、当該報告集Vol.28として、平成24年12月20日に発刊し、298箇所寄贈した。
 - ③助成期間終了後、収支報告書を当法人に提出する。
 - ④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載した。
- (2) 平成24年度海外共同研究支援助成（定款第4条-2）
- 1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。
 - 2) 募集対象：海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。
 - 3) 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内。
 - ②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内。
 - 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。
 - 5) 応募方法
 - ①応募方法は、「研究助成」と同一。
 - ②応募受付期間：平成24年1月15日～2月28日
 - ③平成24年度の応募数：16件
 - 6) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第4

回選考委員会による選考結果をもとに、第8回理事会にて7件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料-2:平成24年度当該助成採択者参照)

- 7) 成果:実施終了後、実施報告書並びに収支報告書を入手した。
- 8) その他:平成25年度の実施は中止としているため、当該年度の募集は休止にした。

(3) 平成24年度研究会・シンポジウム開催助成(定款第4条-3)

- 1) 概要:萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
- 2) 募集対象:生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内
 - ②採択数:海外共同研究支援助成と併せて10件以内。
- 4) 募集方法:当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- 5) 応募方法
 - ①応募者は、所定の申請書必要事項を記入後、当法人に送付した。
 - ②応募受付期間:平成24年1月15日~2月28日
 - ③平成24年度の実応募数:2件
- 6) 選考方法:理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第4回選考委員会による選考結果をもとに、第8回理事会にて1件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料-3:平成24年度当該助成採択者参照)
- 7) 成果:実施終了後、実施報告書等並びに収支報告書を入手した。
- 8) その他:平成25年度の実施は中止としているため、当該年度の募集は休止にした。

(4) 平成25年度海外留学奨学研究助成(定款第4条-4)

- 1) 概要:海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
- 2) 募集対象
 - ①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。
 - ②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり600万円(助成期間は、2年間)。

- ②採択数：5件以内。
- 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。
- 5) 応募方法
 - ①応募方法は、「研究助成」と同一。
 - ②応募受付期間：平成24年4月1日～5月31日
 - ③平成25年度分の応募数：44件
- 6) 選考方法
 - ①理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第6回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。
 - ②選考委員会により、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5件）を決定した。
 - ③第10回理事会にて5件の助成対象者を決定した。（附属明細書資料-4：平成25年度当該助成採択者参照）
 - ④その後、1名の辞退があった。
- 7) 研究成果の公表：「研究助成」と同一。

(5) 財団創立30周年記念事業

- 1) 海外帰国研究者研究継続支援助成
 - ①概要：当事業は、平成25年度が財団創立30周年にあたり、それを記念して実施する助成事業であり、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に意欲的に取り組んでいる海外帰国研究者で、かつ、帰国後の研究資源に恵まれない者に対して研究継続支援助成を行う。尚、平成25年度単年度の事業である。
 - ②募集対象：平成24年1月以降に海外留学から帰国した研究者、或いは現在海外留学中で、平成25年12月までに帰国する45歳未満の研究者（海外留学期間2年以上とする）。
 - ③募集規模
 - ア) 1件当たり300万円（助成期間は、3年間）。
 - イ) 採択数：5件以内。
 - ④募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。
 - ⑤応募方法
 - ア) 応募方法は、「研究助成」と同一。
 - イ) 応募受付期間：平成25年1月15日～2月28日
 - ⑥選考方法
 - ア) 選考方法は、「研究助成」と同一方法で実施する予定。
 - イ) 平成25年12月理事会にて採択者決定の予定。

⑦研究成果の公表：「研究助成」と同一方法で実施する予定。

2) 若手研究者海外短期留学奨学研究助成

①概要：当事業は、平成25年度が財団創立30周年にあたり、それを記念して実施する助成事業であり、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を専攻する若手研究者の流動性向上、キャリア形成を図ることを目的としている。尚、平成25年度単年度の事業である。

②募集対象

ア) 生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究分野の研究者を目指す、日本国内在住の大学院生。

イ) 3ヶ月以内の海外留学を計画している者。

③募集規模

ア) 1件当たり75万円以内。

イ) 採択数：6件以内。

④募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。

⑤応募方法

ア) 応募方法は、「研究助成」と同一。

イ) 応募受付期間：平成25年1月15日～2月28日

⑥選考方法

ア) 選考方法は、書類選考並びに面接選考を実施する予定。

イ) 平成25年5月理事会にて採択者決定の予定。

⑦研究成果の公表：実施報告書並びに収支報告書の提出を要請している他、平成26年度に成果報告会を実施予定。

3. 研究業績褒賞事業（公2）

(1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

2) 褒賞名：第10回高峰記念第一三共賞

3) 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。

4) 推薦方法

①理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長

等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。

②推薦期間：平成24年1月15日～2月28日

③推薦件数：本年度は、17件の推薦があった。

5) 選考方法

①第一次選考：第4回選考委員会により応募候補者の選定を行い、4名の候補者が第二次候補者となった。

②第二次応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

6) 最終選考

①第10回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

②第8回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、プレスリリースを実施した。

7) 受賞者及び受賞研究テーマ

①受賞者：岩坪 威博士（東京大学大学院医学系研究科教授）

②受賞研究テーマ：「アルツハイマー病におけるβアミロイド形成機構・抑制薬に関する研究、並びに画像・バイオマーカーを用いた治療薬の開発研究」

8) 褒賞の方法および贈呈

①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

②贈呈式を実施し、表彰した（開催日：平成25年2月1日、開催場所：東京會館）。出席者数：59名。

③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

(2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

1) 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

2) 名称：第29回高峰カンファレンス

3) 開催の内容

①テーマ：「アルツハイマー病：分子病態研究から予防・治療をめざして」

②開催時期：平成25年3月1日

③開催場所：東京會館

④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演。

ア) 記念講演

座長：高久史磨先生（日本医学会会長）

演者：岩坪 威先生（東京大学大学院医学系研究科教授）

演題：アルツハイマー病の分子病態解明と治療法の開発

イ) 講演

座長：岩坪 威先生（東京大学大学院医学系研究科教授）

演者1：朝田 隆先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授）

演題：アルツハイマー病の疫学と診断の現状

演者2：樋口 真人先生（放射線医学総合研究所分子イメージングセンター チームリーダー）

演題：認知症分子イメージング研究：病態理解と診療への貢献

演者3：富田 泰輔先生（東京大学大学院薬学系研究科 准教授）

演題：セクレターゼ活性の制御によるアルツハイマー病治療薬開発

- ⑤応募方法及び出席者数：募集期間（平成25年1月15日～2月25日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、78名の参加者を得た。
- ⑥開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

平成23年度研究助成採択者

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
荒井孝義	千葉大学大学院理学研究科化学コース・教授	含窒素ヘテロ環化合物ライブラリーによる新規癌化機構の解明と制御
荒木靖人	埼玉医科大学ゲノム医学研究センタープロジェクト研究部門・助教	CD8陽性T細胞分化及び機能を制御するヒストン修飾関連酵素複合体の解明
伊藤素行	名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻・准教授	集会的細胞遊走を調節する分子機構の解明
稲田明理	九州大学大学院医学研究院先端医療医学糖尿病遺伝子分野・准教授	膵島β細胞の新生を促進するメカニズムの解明
内山真伸	東京大学大学院薬学系研究科・教授	有機金属/錯体化学と生命科学をつなぐバイオオルガノメタリクス研究
生沼泉	京都大学大学院生命科学研究科・助教	ガイダンス因子の細胞接着を介した普遍的役割の解明
扇田久和	滋賀医科大学分子病態生化学・教授	がんの浸潤・転移におけるがん細胞と間質細胞の直接相互作用の役割と分子機構
尾野亘	国立病院機構 京都医療センター臨床研究センター・客員室長	イントロン性マイクロRNA-33a/bのコレステロール・脂質代謝に対する役割の解明
加藤博己	京都大学ウイルス研究所分子遺伝学分野・准教授	ウイルス核酸センサーMDA5と腎炎発症との関わり
金崎啓造	金沢医科大学糖尿病内分泌内科学・講師	脂肪肝に対するCOMT不全の是正を介したオートファジー誘導治療戦略の開発
河崎洋志	東京大学大学院医学系研究科・神経機能解明ユニット・特任准教授	高等哺乳動物を用いた脳神経系形成メカニズムの解明
北川裕之	神戸薬科大学生化学研究室・教授	コンドロイチン硫酸鎖による軟骨分化制御機構
久原篤	甲南大学理工学部生物学科・講師 (PI)	線虫C.エレガンスをモデル系とした神経回路構成システムの解析
黒田真也	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻生物情報科学科・教授	インスリン作用の生理と病態のシステム生物学
佐藤浩二郎	埼玉医科大学医学部リウマチ膠原病科・講師	ヘルパーT細胞の分化・機能を制御する転写因子ネットワークの解明
高橋裕	神戸大学大学院医学研究科糖尿病内分泌内科学・講師	成長ホルモン、IGF-Iによる非アルコール性脂肪性肝炎の治療応用
高村史記	近畿大学医学部免疫学教室・助教	抗原特異的メモリーCD8T細胞の肺粘膜への蓄積を目的とした新規インフルエンザワクチン開発の基礎研究
田口英樹	東京工業大学大学院生命理工学研究科・教授	酵母プリオン研究に立脚したアミロイド伝播・非伝播の分子機構

氏名	所属機関・職名	研究課題
館野浩章	独立行政法人産業技術総合研究所糖鎖医学工学研究センター・研究員	新規未分化マーカーの開発
田中耕三	東北大学加齢医学研究所分子腫瘍学研究分野・教授	新規分子CAMPが細胞分裂期に作用する抗がん剤の効果に与える影響の解明
田中伸哉	北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野教授	癌化を制御するシグナル伝達アダプター分子Crkを標的とした新規治療薬の開発
田中芳彦	九州大学生体防御医学研究所・准教授	3次元における樹状細胞の細胞動態を制御する新しい分子機構の解明
田村拓也	東京医科歯科大学難治疾患研究所・助教	神経変性疾患治療薬の <i>in vivo</i> スクリーニング；神経幹細胞におけるDNA損傷の神経変性への関与の解明
中井彰	山口大学大学院医学系研究科・教授	タンパク質ホメオスタシス経路の制御機構の解明
西田基宏	九州大学大学院薬学研究院・准教授	心臓の早期老化におけるTRPC3チャンネルの役割解析
野村真	京都府立医科大学大学院医学研究科・神経発生生物学・准教授	成体脊髄神経幹細胞における受容体型チロシンキナーゼEphBの機能解析
藤谷与士夫	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学・准教授	オートファジーはヒトIAPPによる細胞毒性から膵β細胞を保護するか？
古川貴久	財団法人大阪バイオサイエンス研究所発生生物学部門研究部長	網膜未分化前駆細胞の多分化能の制御機構の解析
松下正之	琉球大学大学院医学研究科・教授	低酸素応答を制御するストレス顆粒形成機構の解明
山下俊英	大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学・教授	多発性硬化症の病態形成機序の解明
南野徹	千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学・講師	老化からみた生活習慣病治療の開発
安友康二	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授	炎症応答を制御するNotchシグナルの分子基盤の解明
吉田秀郎	兵庫県立大学大学院生命理学研究科・教授	ゴルジ体ストレス応答を制御する転写因子TFE3とMLXの発現・活性調節機構の解析

平成24年度研究助成採択者

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
浅川和秀	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 個体遺伝学研究系・助教	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に準えた疾患モデルゼブラフィッシュの樹立と解析
伊東進	昭和薬科大学薬学部・教授	がん化過程におけるTGF-βシグナルの陰陽分子メカニズム
今居議	順天堂大学医学研究科 神経変性疾患病態治療探索講座・先任准教授	若年性パーキンソン病原因遺伝子産物によるミトコンドリアの恒常性維持機構の解明
浦野泰照	東京大学大学院医学系研究科・教授	新規activatable光増感プローブの精密開発によるがんの高選択的PDT治療の実現
大内乗有	名古屋大学大学院医学系研究科分子循環器学寄附講座・教授	新規アディポサイトカインによる血管病制御機構の解明
太田嗣人	金沢大学脳・肝インターフェースメディスン研究センター・准教授	新規ケモカインによるインスリン抵抗性の病態分子機構解明と治療応用
大塚稔久	山梨大学大学院医学工学総合研究部 生化学講座第一教室・教授	神経終末アクティブゾーン蛋白質CASTの機能修飾とその破綻
岡田欣晃	大阪大学大学院薬学研究科生命情報解析学分野・准教授	Robo4遺伝子ノックアウトマウスが敗血症抵抗性を示すメカニズムの解明
川崎常臣	福井大学大学院工学研究科材料開発工学専攻・准教授	アキラルイミンの単結晶中における二次元配向を利用した不斉アミノ酸合成法の開発
河原行郎	大阪大学医学系研究科・特任准教授	ALS病態の解明に向けたTDP-43分解制御機構の同定
近藤久雄	九州大学大学院医学研究院細胞工学分野・教授	細胞内小器官の異常を来す分子機構とその病態生理意義
鈴木一博	大阪大学免疫学フロンティア研究センター・特任准教授	自己免疫疾患の病態における神経系による免疫応答制御機構の解明
高須清誠	京都大学大学院薬学研究科・教授	In situ活性化に基づくpH応答型抗腫瘍活性化化合物および蛍光プローブの創製
竹内理	京都大学ウイルス研究所感染防御研究分野・教授	RNA分解酵素Regnase-1による炎症制御メカニズムの解析
竹内賢吾	公益財団法人がん研究会がん研究所 分子標的病理プロジェクト・プロジェクトリーダー	リンパ腫の病理学的研究：治療戦略を左右する新規疾患概念の確立と新規病因遺伝子の探索
中沢由華	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・テニユアトラック助教	紫外線高感受性症候群の責任遺伝子UVSSAの機能解析
中村貴史	鳥取大学大学院医学系研究科 機能再生医科学専攻 生体高次機能学部門・准教授	マイクロRNAを指標にして難治性悪性腫瘍を標的破壊する癌ウイルス療法とバイオイメージングの新戦略
南学正臣	東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科・教授	methylglyoxalによる心腎連関と血管老化の機序の解明

氏名	所属機関・職名	研究課題
南保明日香	北海道大学大学院薬学研究院・講師	将来的なエボラウイルス制圧を目的とした抗エボラウイルス薬ハイスループットスクリーニング系の開発
西川俊夫	名古屋大学大学院生命農学研究科・教授	新規連続環化反応によるサキシトキシン関連化合物の合成とイオンチャネル阻害剤の創製
西頭英起	宮崎大学医学部機能生化学・教授	ALSにおける小胞体ストレスを介した運動神経細胞死メカニズムの解明
花房洋	名古屋大学大学院理学研究科・助教	受容体型チロシンキナーゼのリソソーム分解制御と細胞癌化
深見真紀	独立行政法人 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部・部長	次世代遺伝子解析技術を用いた新規性分化疾患発症機序の解明
福田光則	東北大学大学院生命科学研究所・膜輸送機構解析分野・教授	Rab機能不全による神経疾患発症の分子基盤の解明
藤田恭之	北海道大学 遺伝子病制御研究所分子腫瘍分野・教授	正常上皮細胞と癌細胞の相互作用を利用した新規癌治療薬の開発
別所義隆	(独) 理化学研究所・放射光科学総合研究センター機能解析第2研究チーム・チームリーダー	不治ミトコンドリア病の治療に新しい光
村上誠	公益財団法人 東京都医学総合研究所脂質代謝プロジェクト・プロジェクトリーダー	新規GPC産生経路の同定とその生物学的意義の解明
山縣和也	熊本大学大学院生命科学研究部病態生化学分野・教授	膵β細胞転写因子を基盤とした糖代謝制御機構の解明
山本雅裕	大阪大学微生物病研究所 感染症態分野・独立准教授	病原性原虫エフェクター分子群による宿主免疫回避機構の解明
和氣弘明	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 基礎生物学研究所光脳回路研究部門・助教	グリア細胞の機能からみた精神・神経疾患へのアプローチ

平成24年度海外共同研究支援助成採択者

7件 (交付金：1件50万円)

(50音順、敬称略)

申請者名・所属機関・職名	共同研究者名 所属機関・職名	A：共同研究テーマ B：共同研究開始時期 C：期間
有海 康雄 熊本大学エイズ学 研究センター 独立准教授	Didier Trono教授、学部長 スイス連邦工科大学ローザンヌ校(EPFL) ライフサイエンス部 スイス	A：宿主ゲノムを動くレトロエレメントの動態制御機構 B：2011(平成23)年1月から開始 C：平成24年7月17日～7月31日
稲田 明理 九州大学大学院医 学研究院 先端医療医学部門 糖尿遺伝子分野 准教授	Susan Bonner-Weir Professor of Harvard Medical School, Joslin Diabetes Center 米国	A：糖尿病で減少したβ細胞の検証、幹細胞からの分化機構、β細胞の増殖機構に関する共同研究 B：2007(平成19)年6月1日から開始 C：平成24年8月1日～8月10日
井上 邦夫 神戸大学大学院 理学研究科 生物学専攻 教授	星島 一幸助教 David J. Grunwald Professor of Department of Human Genetics, University of Utah Medical School 米国	A：TALEN法を用いた特定遺伝子への高効率変異導入による小分子RNAサイレンシング装置の生理機能解明とその破綻モデル系構築 B：2011(平成23)年1月から開始 C：平成24年7月22日～8月1日
中村 浩之 千葉大学大学院 薬学研究院 助教	Tamas Balla Senior Investigator National Institutes of Health(NIH) 米国	A：ニーマンピック病C型の神経変性におけるスフィンゴ脂質の関与の解明 B：2011(平成23)年2月から開始 C：平成24年11月1日～平成25年2月28日
松本 理器 京都大学大学院 医学研究科 脳病態生理学講座 臨床神経学 助教	Matthew A. Lambon Ralph Associate Vice-President Professor of Cognitive Neuroscience Neuroscience and Aphasia Research Unit (NARU), School of Psychological Sciences, University of Manchester, Manchester 英国	A：前側頭葉における意味処理機構および外科切除後の機能回復機転の解明 B：2011(平成23)年3月から開始 C：平成24年11月11日～11月16日
安永 純一朗 京都大学ウイルス 研究所 ウイルス制御研究 領域 講師	Kuan-Teh Jeang Principal Investigator Laboratory of Molecular Microbiology (LMM), National Institute of Allergy and Infectious Diseases (NIAID), National Institutes of Health(NIH) 米国	A：脱ユビキチン化酵素USP20/33の生理機能とHTLV-1発がんにおける役割 B：2010(平成22)年12月から開始 C：24年10月頃～11月頃
山下 沢 大阪大学大学院 薬学研究科 分子薬科学専攻 分子反応解析学分 野 助教	Dr. Marten H. Vos Research Director Ecole Polytechnique, CNRS フランス	A：薬物代謝活性性能の発現機構の詳細解明 B：2008(平成20)年7月から開始 C：平成24年7月2日～7月20日

[資料-3]

平成24年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

1件（交付金：1件50万円）

(敬称略)

申請者名・所属機関・職名	会議名、場所、開催日、参加人数（予定）
中尾実樹 九州大学大学院農学研究院教授	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回 国際比較免疫学会学術集会 ・ヒルトン福岡シーホークホテル（福岡市中央区地行浜） ・平成24年7月9日～7月13日（5日間） 国内 200名, 国外 150名, 合計 350名

[資料-4]

平成23年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
伊藤保志	岐阜薬科大学薬効解析学研究室 大学院生 Department of Cell Biology, Harvard Medical School 米国	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する新規治療法の確立
岩井玲奈	東京大学大学院医学系研究科 大学院生 Columbia University 米国	網膜個性決定と立体視神経回路の形成における網膜色素上皮の分子機能
土屋淳紀	新潟大学医学部第三内科（消化器内科） 医員 MRC/University of Edinburgh Center for Inflammation Reseach 英国	肝組織幹前駆細胞をターゲットとした新しい肝再生医療及び肝細胞癌に対する治療開発を目指して
中川勇人	東京大学医学部附属病院消化器内科 医員 University of California, SanDiago 米国	メタボリック症候群関連肝発癌におけるIKK/NF-kappaBの役割
三吉範克	大阪大学医学部附属病院消化器外科 医員 Massachusetts General Hospital & Harvard Medical School 米国	多能性幹細胞の誘導と臨床応用のための開発研究 とくに腫瘍化に関わる遺伝子発現解析についての研究

平成24年度海外留学奨学研究助成採択者

3件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
今井駿輔	東京大学大学院 薬学系研究科 特任研究員 Harvard Medical School 米国	IRES依存的翻訳機構の構造生物学的解明
岩崎正治	九州大学 医学部 (医学科) 学部生 (医学博士) Scripps Research Institute 米国	出血熱アレンウイルスの複製や遺伝子発現を制御する宿主因子の同定と機能解析
川岸裕幸	国立長寿医療研究センター研究所 老化細胞研究プロジェクトチーム流動研究員 National Institutes of Health 米国	オートファジー活性時におけるDNA損傷応答機構の役割と代謝系疾患との関連

平成25年度海外留学奨学研究助成採択者

5件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
泉川友美*	神戸薬科大学 生化学研究室 特別契約研究員 University of Toronto カナダ	前立腺癌の進行および転移における glypican-6の機能解析
関根悠介	東京大学 大学院薬学系研究科 助教 University of Cambridge 英国	小胞体ストレスセンサーIRE1の新たな活性制御作用点の解明
錦井秀和	筑波大学 医学医療系 血液内科 講師 Stanford University 米国	造血幹細胞移植後の骨髄内GVHDが及ぼす骨髄ニッチの影響に関する研究
日吉大貴	大阪大学 微生物病研究所 特別研究員 Max Planck Institute for Heart and Lung Research ドイツ	サルモネラ、宿主とその腸内細菌叢
福田隆一	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 University of California San Francisco 米国	ASB family分子による心臓発生・心機能への影響解析

*平成25年2月4日付、日本学術振興会海外特別研究員採用のため、辞退